



JAC岩手支部通信 第48号

2018年9月30日発行 (公)日本山岳会岩手支部



目

次

岩手支部 30 年度総会	高橋慎一	1	日本山岳会入会挨拶	澤口 誠	8
<u>特集「ふるさとの山に登ろう」</u>			栗駒山 3 支部合同登山	高橋慎一	9
プロローグ	阿部陽子	2	3 月例会：御月山	遠藤正子	10
山行記録	中屋重直	2	4 月例会：万寿山	高橋 耕	12
サポート隊	菅原敏夫	3	5 月例会：栗木ヶ原	菅原純悦	13
「イシガミヤマ」の悟り	志田順悦	4	6 月例会：祭時山	滝浦弘美	14
石上山登山の感想	中村文子	4	7 月：全国支部懇談会	中屋重直	10
風がある場合の体感温度	中屋重直	3	9 月：岩手山山小屋管理	中屋重直	13
ショット shot	写真集	15	野生生物の個体数推定		11
積雪期講習会参加報告		5	編集後記	菅原敏夫	15
冬季、残雪期、指導者養成講習等	澤口 誠	8			

（公）日本山岳会岩手支部平成30年度定期総会

と き 2018年4月8日（日） ところ 濱野井マリオス店

事務局 長 高橋 慎一

平成30年度総会は分より、盛岡駅西口にて開催された。在籍会席者20名、委任状提出したことを確認。は長から、岩手支部が主
区大会への協力に感
がなく活動できたこ
でき若手も入会した
と、また登山計画書の提出についてご意見を頂きたいとの挨拶があった。



4月8日(日)13時30
濱野井マリオス店に
員・会友67名中、出
出者31名で総会が成
じめに阿部陽子支部
管した東北・北海道地
謝を述べ、一年間事故
と、さらに会員を増加
ことは大変嬉しいこ

続いて議事に入り、高橋 耕氏を議長に選出して審議が行われた。第1号議案事業活動報告、2号議案会計決算報告並びに監査報告については、補足説明を加えていづれも議案書通り承認。3号議案事業活動計画(案)については、6/17 栗駒山宮城・秋田・岩手3支部合同登山参加や8/11 山の日記念「ふるさとの山を登ろう」石上山公募登山の実施など議案書通り承認された。4号議案会計予算(案)については、事業費に「登山講習会参加補助費」を含めることを確認して承認された。また東北・北海道地区集会決算報告について菅原敏夫氏より説明があり、別紙（支部通信47号P11掲載）の通り承認された。

検討課題である遭難対策規程改定に伴う支部対応について中屋重直氏より提案説明があり、支部主催山行並びに支部会員による個人山行を含めて登山計画書（登山届）を支部事務局（iwt@jac.or.jp）及びJAC 遭難対策委員会（ ）に提出することを改めて確認した。また役員改選では阿部裕二副支部長が退任し、中屋重直氏を副支部長に選任した。

祝辞として岩手県山岳協会会長の高橋時夫氏（会員）から、県山協も5月1日付より一般社団法人としてスタートすることになった、さらなる加盟団体の協力・支援をお願いしたいと挨拶を述べられた。総会後は出席者による懇親会が行われ、お互いの近況報告や山情報の交換、支部山行などが話題になり大いに親睦を深め合った。

【 総会出席者 20 名 】

阿部孝夫、高橋時夫、鵜田正俊、遠藤征彦
滝浦弘美、熊谷英雄、中屋重直、中谷 充
音石康一、阿部陽子、菅原敏夫、阿部裕二
遠藤正子、高橋慎一、高橋 耕、久保 豊
高木恵美子、高橋タイ子、高橋万見子、
久多良謙一

【 懇親会参加者 16 名 】

阿部孝夫、久保 豊、高橋 耕、鵜田正俊、
遠藤征彦、熊谷英雄、中屋重直、中谷 充、
阿部陽子、菅原敏夫、阿部裕二、遠藤正子、
高橋慎一、滝浦弘美、高橋万見子、
久多良謙一

特集

第 3 回 [山の日] 記念

ふるさとの山を登ろう『石上山』登山**と き 2018. 8. 11 と こ ろ 遠野市綾織町****プロローグ**

岩手支部長 阿部陽子

山行記録

中屋重直

国民の祝日「山の日」が制定されて3年目の平成30年8月11日、岩手支部は一般登山者を募り「石上山」登山を実施した。

石上山は早池峰山と六角牛山とともに遠野三山と称される名峰である。古い鳥居をくぐり、しばらく杉の美林を進むが、馬留めからは長い急登が続く。刀納めと中之堂の上部より鎖や梯子を設置した大岩が出現するなど、昔から修験者の領域であったことがうかがえる。三姉妹の二女がもらった石上山に、女が登れば「女神さまが嫉妬する」との習いで女人禁制だったという。しかし、緊張と弛緩が入り混じり、登山路はことのほかスリリングで面白い。

石上山は石神山とも書く。標高 1037m、一等三角点の頂である。途中の兜岩のロケーションが、まるで絵巻物を広げたように見事だ。鳥海山・室根山・種山ヶ原・和賀岳・秋田駒ヶ岳・東根山・岩手山・早池峰・白見山・五葉山と、一等三角点の頂を 10 数える。

石上山を選定した菅原敏夫さん自らが、幹事となって綿密な行動計画を練り、率先したからこそ実現できた山の日記念山行であった。10名の会員それぞれが振り当てられた役割を楽しみ、自然の恵みに感謝した。そして嬉しいことに、7名の一般参加者は石上山に初めて登ったという。

「ふるさとの山を登ろう！」 近々、女神さまも「女人禁制解除」を宣言するに違いない。

**石 上 山**

(山谷川牧野から)

遠野市の南部曲り家千葉家駐車場での受付に集合した顔ぶれは、支部会員 10 名と新聞等での公募に応じた市民 7 名であった。

阿部支部長から本日の企画の趣旨と行程の説明を受けた後、分乗し、8 時半すぎに綾織町登山口(標高 463m)に移動した。この後、豚汁班は下山口の山谷川牧野へ向かった。

石上山には初めて登るというメンバーが多数だったが、斜面は緩やかであり、にぎやかにおしゃべりをしながら歩きだしたので、まずは大丈夫だろう。中屋が先頭を歩いたが、先週の下見の時よりもゆっくりのペースで、という指示で、水場のある馬留めまで 50 分費やした。大休止のあと不動滝に寄るコースを経由して、やや急登の尾根を進んだ。汗と息切れで苦しくなった頃、中之堂の岩場に着いた。くり返し話に出ている鉄ハシゴと鎖でいくつもの大岩を越える難所である。ストックは危なくて使えないし、ひとりずつしか登れないのだから、もしも早池峰のように多数の登山者が来るようになったとしたら大きな問題となろう。今回の公募では人数だけでなく年齢等も制限をうたった慎重さが賢明だったと言える。

登山開始から 2 時間、全員が岩場を登り切った兜岩頂上に立った。

休憩していると、この日はじめて会った別パーティが追いついていき

**兜岩での歓喜**

「山頂はまだ先ですよ」と言われる。頂上圏は南北に 500m ほど長く、南端に一等三角点 (1,037m) があるからである。

この先行者にシャッターを押してもらったので、三角点山頂で 13 名が顔を揃えた。そして 11 時 15 分、まだ次の計画があるので、縦走ルートを下山する。この道は林の中にあるが、笹が良く刈り払われており、昔の牧野境の土塁に沿っているので何ら不安はない。明日実施されるというトレイルランのコース案内の矢印もある。どんどん下ると、ちょうどサポート隊の菅原 (敏) さんと滝浦さんが迎えに登ってきた。昼の準備は予定通り「811m 付近の草地」に設営したという。

標高 900m で林を抜けると広い牧草地に出る。刈取り作業の人が見えるがここに牛はいない。山谷川共同牧場である。大垂水 (817m) 三角点も確認し、12 時 20 分、眺めのよい草地にブルーシートを敷いて豚汁ナベなどを用意した遠藤 (正) さん、高木 (恵) さんと合流した。午後になっても、悪天候にならず幸いであった。

サポート隊

菅原敏夫

石上山は標高こそ高くないが登路が険しい山だ。だから遠野三山に与する信仰の山である。証左は中之堂の本格的な鎖と梯子にある。こんな山を体感してほしいと、広く新聞で呼びかけた。曰く

◇山の日記念・石上山登山

8 月 11 日 8 時、遠野風の丘駐車場集合。参加費 1000 円 (保険、写真、豚汁代等)、持物は夏山登山装備、昼食。募集 10 名。登山レベル中級、年齢中学生～70 歳未満。申込みは 7 月 30 日まで
日本山岳会岩手支部 菅原敏夫宛、氏名・住所・年齢・電話番号を記入、問い合わせも Fax で。

石上山は遠野三山の 1 つ、鎖・梯子のあるスリリングな山です

砂子沢登山口で体操、13 名が発出した後サポート隊 4 名は、車の回送、山谷川に基地を設定、豚汁準備。その後、男子 2 名は本隊を迎えるべく頂上へ、頂上直下で一行と交差。

下山集合地は山谷川牧野にある三等三角点「大垂水」、8 月 11 日にちなんだ標高 811m 地点とした。山谷川牧野は組合員 100 名、300 ヘクタール余の広大な牧草台地、地元綾織町の「石上トレイル Fes」に備え、頂上からの山道もきれいに整備されていた。

風がある場合の体感温度 中屋重直

風が当たればどのくらい涼しくなるか、を実験した学者達がいる。

アメリカのヤグローは、湿度 100% で無風の状態で感覚を基準に、これと同じ身体感覚の気候条件を調べ、軽労働をして着衣の場合と上半身裸の時とに分けて「体感温度表」を作成した。これによって 8～36℃で風が吹いたときはどのくらい涼しく感じるか、が示されている。なお、36℃を超える気温のもとでは風があればより暑く感じ、8℃を下回るときは、湿度が高いほど体感温度が低くなる。ただし、ヤグローは 3.5m/秒以下の風速で実験したことに注意しよう。

リンケは、「風速の平方根×4」という単純な数式で示している。例えば、風速 3m/秒ならば 7℃ (体感温度) の低下、風速 4m/秒ならば 8℃の低下、5m/秒では 9℃低下、という、すなわち「風速 1m ごとに 1℃の体感温度低下」説の根拠になっている。もしもこのまま計算すれば、「風速 10m/秒になると 15℃低下し、風速 20m の強風下は 18℃低下する」となってしまうけれど、もちろんそんな実験根拠はない。

結局、単純に「風が 1m/秒吹くごとに体感温度は 1℃下がる」は山中の強風や、氷点下で、等は全く当てはまらないことを知っておきたい。

「イシガミヤマ」の悟り

志田 順悦

かわい山岳会所属 46 才 岩手県岩手町

山仲間から「山の日にイシガミヤマに登りませんか？」と突然山行のお誘いが。真っ先にイメージしたのは地元岩手町の「石神山」。町立石神の丘美術館の野外彫刻に彩られたアートの山だ。しかし今回のイシガミヤマは遠野市の「石上山」で修験者の山という。主催は名高い日本山岳会岩手支部。記念すべき山行がなぜこの里山なのか。期待に胸を膨らませ二つ返事で参加を決めた。当日は「キーワードは 811」と説明が。一体どういうことなのか。一行は山とグルメの話題に会話を弾ませ蒸し暑い森をどんどん進む。修験者の山であることを忘れかけたその時、突然、行く手にハシゴと鎖の壁が立ちはだかった。そこからはまさに修験の道。皆の表情が険しさを増し、自重を支える手が震え出す。登り、進み、登り、ようやく巨岩が鎮座する頂上付近に至った。青空に向かって大きな深呼吸を 3 回。かつての修験者たちの悟りに思いをはせる。私は日頃の豊食を悔い、さらなる減量の必要性を悟った。その後は頂上経由で麓の牧野へ。途中 3 カ所で「811 だよ！」とご案内。キーワードの「811」とは標高 811m 地点のことだったのだ。さすがは日本山岳会、粋な計らいだ。到着した牧野には広々とブルーシートが敷かれ、何と美味しい豚汁と旬のスイカが。あまりの感動に先ほどの悟りと我を忘れた。アルプスの名山も身近な里山も同じく、長い歴史とそこに暮らす人々の思いが息づいている。また一つ山の魅力と奥深さに触れた。おかげさまで素晴らしい「山の日」を過ごすことができた。



登山道がしだいに険しくなります



石上山登山の感想

中村 文子

40 代 盛岡市下米内

自分にとって 3 度目の登山は、スタートから傾斜、勾配の続く道でした。蒸し暑かったですが、林の中を、沢の音、虫や鳥の声を聞き、風や木漏れ日を感じ、みなさんとお話しながら登って、とても楽しかったです。

途中、姥石など言い伝えも教えていただいて、土地の歴史にも触れられました。沢水を飲まない意味や、岩場で鎖やハシゴを登る時は 1 人ずつ行く、見ている人がいる事が大切など、その場その場で教えてくださり、ずっと覚えられました。岩場も初めてでしたので、山頂に着いた時はとてもホッとしました。

山頂では、休んでいるうちに遠くの景色が消えていき雲に包まれ、その変化も楽しいと思っていましたら、それは天候が崩れるサインだったようで、即移動。山の天気の変化の速さを実感しました。連れて行っていただいたおかげで安全、安心登山でした。

昼食にいただいた出来立ての豚汁と旬の滝沢スイカ、とても美味しかったです。手作りの漬物などおすそ分けもごちそうさまでした。目の前に広がる雄大な山なみ、牧草地と青空と雲、眼下の田畑と家々など景色もとても美しく、お昼を過ごした時間ごと心にじんわり残っています。

また機会がありましたら、参加させていただきたいです。本当に様々ありがとうございます。



登山口での体操と出発準備です

積雪期講習会参加報告

昨年12月県山岳協会の初冬期登山講習会を手始めに5月の残雪期講習会まで、4回の講習会に参加しましたので、その概要をご報告します。

澤口 誠

◎平成29年度 初冬期登山講習会・指導員研修会

期日：12月2～3日 参加人数 11人

会場：三ツ石避難小屋（松川コース）

内容：冬山登山技術（歩行、凍傷、低体温症）

県山岳協会の初冬期登山講習会に日本山岳会岩手支部として参加してきました。JAC岩手支部からは阿部支部長と私。

スタートは松川温泉登山口。さすが八幡平、12月頭なのに駐車場に雪がたっぷりあります。大きなザックを背負い先行者のトレースもあるが雪深い夏道を途中からスノーシューを付けて登ります。

松川大橋の分岐からは読図。各自持参の地図を広げ避難小屋にコンパスを合わせて膝までの



沢を越える参加者

ラッセルを交代で進みます。約3時間半で三ツ石避難小屋に到着。小休憩の後三ツ石避難小屋の周辺で県山協土井講師からアバランチトランシーバーの講習、プ

ロープの使い方、雪崩に巻き込まれた時の救出方法。座学として中島講師から低体温、凍傷の救命などの講習を受けてきました。ビーコンな



隠したビーコンをソンドで探す

どは持っても実際に数人で使った事が無く、とても勉強になりました。



講習会参加者

夜は情報交換会。ストーブのある小屋はほんといいですね！ 夏に荷揚げした薪を焚いて暖を取りました。

次の日の朝はまだトレースの無い三ツ石山頂を目指します。小屋から三ツ石山頂にコンパスをセットしてスタート。ノートレースの雪深い斜面をラッセルをそれぞれ200歩で交代。ガスってましたが、コンパス通りに目の前にピーク。無事皆でピークへ行くことが出来ました。講師の方々二日間有難うございました。

◎平成30年度 冬山講習会・指導員研修会

期日：2月10～11日 参加人数 13人

会場：松川温泉～三ツ石避難小屋泊～大深～源太ヶ岳（周遊コース）三ツ石避難小屋（松川コース）

講習内容：山スキー、読図、生活技術、耐寒訓練、凍傷対策、雪崩遭難対策、冬山登山技術

今回は山スキーでの参加条件。一泊用の重い荷物を背負い13人で松川温泉スタート。松川温泉口の最初の急登が難所。

何とか尾根まで出ると一安心。途中夏道を左にそれるとツアーコースに。見た事無い看板なども見られて気分も良い。山スキーで歩きやすいルート。ツアー看板や読図でピタリと三ツ石避難小屋へ到着。一休み後にまず座

学、この時期の温度・積雪による雪崩のリスク、などを学びます。この日の一週間前に源太ヶ岳で目の前で大きな雪崩を目撃していたのでとても関心がありました。座学後は三ツ石避難小屋周辺で二手に分かれてピットチェックの仕方、遭難時などのイグルーの作り方など学びました。イグルーは練習しないと難しいと思いました。結局誰も完成はしませんでした。悔しい……。夜は情報交換会。色んな山岳会の方々と交流し就寝。

翌日は残念ながら三ツ石避難小屋周辺は濃い霧、風雪、悪条件により周遊コースは講師の判断で中止に。源太ヶ岳のオープンバーン滑りたかったと思いつつ避難小屋を掃除して6時半に小屋出発。1136 ポイントでシールオフ。雪質もまずまず。それぞれツリーランを松川登山口まで楽しみました。

今回の講習会も色々勉強になりました。



山スキーで三ツ石避難小屋を目指します



雪に埋もれる三ツ石避難小屋



ピットチェック作業

◎第7回 登山教室指導者養成講習会

期日：2月17～18日 参加人数 21人

会場：安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター

内容：支部山行のリーダーの育成

日本山岳会の第7回登山教室指導者養成講習へ岩手支部として参加してきました。全国の支部から21人が集まり受講しました。東北は青森支部1人と私。四国支部は数人で参加していました。今回メインの講師は日本山岳会の副会長の重廣講師。場所は長野県の小諸にある安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター。岩手を金曜日の仕事終了後に出発。約6時間半で小諸へ。近くの道の駅で車内泊しました。当日は一番乗りで会場入り。このセンターはとても素敵な施設でした。13:00 から講義開始。講義は夕食挟んで20時まで続けました。

① 【事故防止と山岳遭難救助活動】

長野県警山岳遭難救助隊の櫛引隊長に現場で起きてる事故、怪我、遭難。低体温によるパーティーの現場の写真が衝撃的でした。登山届の重要性、ヘリコプターから見るヘッドランプによるSOSなどを学びました。現場の方から生のお話を聞けるのでとても勉強になります。

② 【日本山岳会の遭難対策】

日本山岳会遭難対策委員長、川瀬講師による登山計画書の徹底！
個人山行でも必ず提出する事。

③ 【支部山行及び登山教室指導要項】

日本山岳会副会長、重廣講師による登山教室内容やセルフレスキューの内容。実践で使えるセルフレスキュー。みっちり夜まで勉強します。その後は全国の支部の方々と交流。次の日は実技講習会。長野は朝から快晴。センターから見える水ノ塔山へ。初めて見る浅間山も素敵です。バスで移動後に総勢約25人で山頂へ向かいます。実践講習の講師は重廣

講師。スキー場からリフト下を隊列組んで膝ラッセル。これがまた雪深い。最近 BC ばかりしていたので楽しい。トレースはわざと外して登ります。トレースを辿ると重廣講師から『トレース外せ！』と怒られます。水ノ塔山のピークからは富士山やら北アルプスやら 3000m 級がドーン！と見えて田舎者には挙動不審になる景色でした。景色を楽しむ暇もなくアイゼンに履き替え指示。行動食をお腹に詰め込み、下山開始。コルに戻り、指導者のロープを持つ重要性。スリングを使ったセルフレスキューやザックを使った怪我人の運び方やロープビレイ、簡単なロープワーク、ザック、ストックを使う簡易担架など学び下山。私的には重廣先生のザックの中にも何を入れて歩いているのかを見せてもらった事が大収穫でした。そしてリフト下を下山、バスでセンターに戻り指導者養成講習修了。

セルフレスキューの大切さ、本当に勉強になりました。それと全国の支部の方々と交流が持てたことは自分にとってとても刺激的でした。参加の皆様お疲れ様でした。

※23:30分無事岩手に帰宅。



① ザック2つとストックで作る簡易担架



② ザックを逆さにして負傷者を運ぶ重廣講師



アンザイレンの
仕方

◎平成 30 年度 残雪期講習会・指導員研修会

期日：5 月 19～20 日 参加人数 20 人

会場：秋田駒ヶ岳（国見温泉登山口）

内容：氷雪、雪上技術の実技（初級から上級の講習）

平成 30 年度残雪期講習会は土曜日の夕方からの開催であったが用事が有り日曜日の実技から参加です。朝、森山荘に泊まった方々と合流。初級中級コース、上級コースと分かれて講習会場のムーミン谷へ向かいます。

私は初めて参加という事もあり、中島講師の初級中級コースに参加。国見温泉周辺は朝からいい天気。先頭を歩く指示を受けペースを作りながら歩きました。横長根手前で振り向くと大きく鳥海山も見えます。横長根は昨年より雪少なく周りの笹が立ってました。横尾根から先は昨日の積雪により登山道脇の葉に雪が積もっています。

初級中級コースは小岳の残雪で、まずはアイゼン付けずに滑落停止訓練。その後アイゼン装着しての滑落停止訓練、アイゼン装着の歩行訓練を行い、斜面を変える為、上級コースが講習してる男岳の斜面へ。急斜面での滑落停止訓練を始めたらいきなり落石。30cm 位の落石が音も立てずに私達の間を凄いいスピードで落ちていきました。怖い・・・

落石に注意しながら上級コースの隣で滑落停止訓練やスタンディングアックスビレイの練習。ロープの方向、止め方など詳しく教えていただきました。軽めの昼食後、帰ろうとすると中島講師が上級コース数名が登ろうとしている男岳に行っておいでと言ってくださり、合流。6 人で男岳の残雪急斜面を直登してピークを目指します。

田所講師がロープを設置、その後登高器やブルージックを使いそれぞれロープで確保しながら慎重に 1 歩 1 歩登ります。私はタイブロックを使用して登りました。

4 回ほどロープ設置して尾根に到着。緊張感と達成感で気持ち良い。阿弥陀池に降りてあとは下るだけ。とても充実した残雪期講習会でした。



ルート選定中の田所講師



スタンディングアックスビレイの練習



中島講師による歩行訓練

日本山岳会入会 ご挨拶



会員番号: 16259
澤 口 誠

この度、日本山岳会岩手支部に入会しました澤口誠と申します。

18.3.17 早池峰山にて

昭和 50 年生まれ。出身は八幡平市大更、現在は盛岡市永井に住んでおります。縁あって支部長の阿部陽子さんと知り合い、山で一緒に、日本山岳会の素晴らしい山行など色んなお話を聞き入会する事を決めました。

八幡平市出身の私は小さい頃から町行事、小学校の行事、スポーツ少年団の行事などで山に登り八幡平の山々を楽しんできました。そのお陰もあり今では山好きに。色んな山での経験をたくここ数年、元旦から雨の日でも雪の日でも県内を中心に必ず週 1 回はグループやソロで山を歩いております。たまにですが山友の息子(小 6)と登って楽しんでいます。春は花、夏は景色、秋は紅葉、冬はバックカントリースキーに里山ラッセルを楽しみ、色んな表情を見せる山が大好きです。

今現在盛岡市内の測量会社に勤めており、仕事で三角点、電子基準点を使い測量し等高線などを図面に描いたり、国土地理院の地図を見て里山などのルート攻略の妄想し、毎日会社でニヤニヤしております。

既に県山協や日本山岳会の講習を受けてますが、これから沢山の登山の技術を学びたいと思っております。まだまだ子供も小さく学校行事、送迎などで参加できない事もあると思いますが出来るだけ皆様と御一緒に山を歩きたいと思っております。皆さんご指導宜しくお願いします。

— 岩手・宮城内陸部地震 10 周年追悼登山 —

平成 30 年 6 月 17 日 (日)

宮城・秋田・岩手**栗駒山3支部合同登山 (1627.4m)**

高 橋 慎 一

2008 年 6 月 14 日に、栗駒山山域の岩手県内陸部を震源とする地震(M7.2)が発生し、死者 12 名、行方不明者 10 名という大きな被害が生じた。地震の影響は山地での崩壊とそれに伴う土石流などが発生し、特に栗駒山南東麓の山容も大きく変えてしまった。

今年は地震発生から 10 年の節目に当たり、宮城支部長のお声がけで栗駒山を県域に持つ宮城・秋田・岩手 3 支部による合同登山を計画し、当時の記憶を新たにするとともに犠牲になられた方々への追悼と、支部相互の交流を深めることを目的に実施された。

6 月 17 日 (日)、午前 9:05 須川高原温泉の登山口を出発、岩手支部から 8 名が参加、宮城支部から 1 名が加わった。岩手支部は須川コースから山頂を目指すことにした。登り始めは硫黄泉独特のにおいが鼻を突く。名残ヶ原に着くと栗駒山の山容がきれいに望めた。新緑に囲まれたワタスゲのお花畑の中、カッコウの鳴き声が響く木道歩きはとても気持ちが良い。地獄谷を過ぎ 10:00 昭和湖着、ここで一息入れる。青緑色の湖面はいつもながら美しく神秘的で見とれてしまう。

ここから須川コースで最もきつい登りが続く。残雪が所々にあり滑らないように進んだ。天狗平からの稜線ではガスが湧き出てきたが、眼下には須川温泉や昭和湖が眺められた。支部旗を掲げ軽快な足取りで 11:30 栗駒山頂上着。すでに秋田支部は到着していて鈴木裕子支部長が笑顔で出迎えてくれた。ほどなく中央コースから宮城支部も到着、冨塚和衛支部長とがっちりと握手を交わした。

予定通り 12:00 正午、各支部の参加者 (宮

城 13 名、秋田 9 名、岩手 8 名) と栗原市議 1 名の 31 名が山頂標柱前に集合、宮城支部の遠藤銀郎会員の進行により追悼行事を行った。この頃からガスが濃くなり視界も利かなくなってきた。はじめに全員で黙祷を捧げ亡くなられた方のご冥福をお祈りした。特別参加の佐々木義郎栗原市議から山行のねぎらいと追悼お礼のご挨拶があった。各支部の紹介の後、宮城支部長から地震直後に目の当たりにした様子や不安だった気持ち、栗駒山麓の「駒の湯」の壊滅状況など記憶にとどめたい思い出などを話された。また中屋重直副支部長からは、地震の際に岩手支部長 (当時) が山中でマイクロバス転落事故に巻き込まれ重傷を負い、全国の会員からご心配と激励を頂いた経緯があったことを話された。秋田支部長からは、自然災害に対する備え、心構えを日頃から意識して活動しましょうと提言があった。最後に JAC 旗の前で参加者全員による集合写真を撮ってセレモニーを終了した。



宮城、秋田、岩手 3 支部の皆さん (栗駒山頂)

昼食をとりながらの交流と情報交換の後には、支部毎に解散となった。12:45 別れを告げて下山開始、宮城・秋田支部会員 2 名が同行、天狗平からは登山者の長い列が続いた。秋田支部は株岳コースを下るとのこと、次回は秋田側のコースを歩いてみたいと話題が上がった。ぬかるみの登山道が終わり名残ヶ原分岐からは、剣岳、賽の河原を回るコースを進んだ。遅咲きのコイワカガミの群落が見

られる。残雪期に急峻な剣岳に登りたいとの勇ましい声も聞かれた。14:45 温泉宿舎脇に全員無事に到着、同行者と別れて岩手支部も現地で解散した。

天候にもまずまず恵まれ初夏の爽やかな栗駒山を満喫できた。今回、目的である 3 支部の交流・親睦を通して 10 周年の追悼登山を実現できたことは非常に有意義であったと思う。今後も機会をとらえて交流を深めてゆきたい。最後に紙面を借りて関係各支部長、事務局、会員参加者にご慰労と御礼を申し上げます。



【参加者 8 名】 高橋慎一(事務局・記録)
中屋重直、菅原敏夫、滝浦弘美、菅原純悦
高橋万見子、澤口 誠、齋藤忠利。

全国支部懇談会・層雲峡 (7 月 22 日)



交流登山班別記念写真。ここ大雪山・赤岳 (2,087m) まで銀泉台から 3 時間。さらに 5 時間歩いて黒岳リフトに到着。左から、菅野、鈴木 (北海道)、阿部、重廣 (副会長)、宮崎 (本部)、大久保 (青森)、中屋、藤木 (北海道)。

3 月例会山行

平成 30 年 3 月 24 日

御 月 山 (954.4m)

遠 藤 正 子

3 月 24 日、8 時 40 分、総勢 7 人で集合場所の安比高原駅を出発。除雪された車道を進み、ゴルフ場のクラブハウスの少し手前で、腰ぐらいの雪の壁を越えてゴルフコースに入る。

先頭はスノーシューをはいた馬力十分の澤口さんと滝浦さんの二人。熊谷、深澤、遠藤の女性 3 人はツボ足で前のトレースをゆっくりとたどる。ふりむくと、スノーシューが初めてという高橋慎一さんが阿部陽子さんのサポートで足元を確かめるように後を歩いてくる。

この日は好天にめぐまれたが、前日までに降った雪に足をとられて実に歩きにくい。スタートしたばかりだというのに、歩みが遅く、我ながら先行きが心配になってくる。

ゴルフ場を縦断して、一番奥の東屋の前で、全員揃うのを待って、10 分ばかり小休憩をとった。

東屋の向かいの、林間の、やや急な斜面を登山始める。ほどなく尾根筋にとりつき、御月山も目に入ってきた。山頂がずいぶん遠くに見える。

尾根を左に折れ、692.4m 地点の手前をトラバースするが、雪がやわらかく谷側に足をとられてしまいバランスを失いそうになる。ワーワーと騒ぎながらもほどなく鞍部にたどり着いた。

鞍部からは、緩やかにアップダウンを繰り返しながら斜面を進む。春の陽光が降りそそぎ、天空に向かって手を広げたいような気持ちの良さだ。しかし、春の息吹にひたってばかりはいられなかった。気温が少し上がってきたせいだろうか、つぼ足組は、時折、膝下まで沈んでしまうようになってきた。ひど

い時には、ものの付け根まではまってしまい、足を抜くのに四苦八苦する。特に木のそばは要注意であった。

低速前進中、2人組の登山者と顔を合わせる。山頂まで、追い抜かれたり追い抜いたりだから、同じ相手と何度か顔を合わせることになる。「結局同じテンポで登っているということだ」と思いつつ足を進めた。

火箱山の分岐を過ぎ、山頂を見ると、稜線の東側には雪尻がはり出ている。気をつけなければいけない。

悪戦苦闘しながらもなんとか頂上直下までたどりついたが、雪の壁が大きく立ちはだかっている。最後の頑張りどころである。へばりつくように一步一步足場を確保し、よじ登るようにして、12時過ぎにようやく山頂を踏むことができた。

眺望が素晴らしい。苦労してきたものだけが味わえる絶景である。特に岩



手山が間近に見えて美しい。雲ひとつなく、稜線が裾野まで明瞭に見える。

山頂の奥には、七時雨山が、いつもとは違ったリアリティーをもって見えている。

北側には、木々の間に、秋田・青森・岩手の県境の山々が遠く重なりあっていた。澤口さんが山の方向にスマホをかざすと、画面に山名が表示された。五の宮だという。そうすると手前は四角岳、その右側は中岳だろうか。

この日は土曜日ということもあって、私たち以外の登山者が後から3～4人登ってきた。そのうちの一人が熊谷敬子さんを見たことがあると言いだした。話しているうちに同じ紫波町の人だということがわかった。しかも紫波中央駅のそばの産直「オガール」で出

会っているのではないかなどと具体的な話で盛り上がってくる。初対面でも山では話がはずむものである。こういう人とのふれあひも、山の楽しさを豊かにしてくれると感じるひと時であった。

眺望をおおいに楽しんだあとは同じコースを下る。阿部陽子さんが御月山に登るときはいつも晴れていると話していたが、やはり、この日もずっと晴れだった。

14時30分過ぎ、安比高原駅に全員無事に到着。

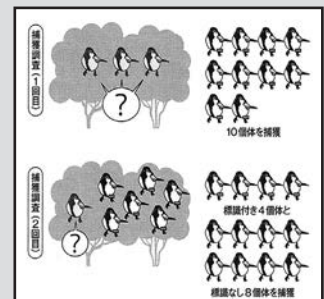
好天に恵まれた充実の春山山行であった。

【参加者】 幹事：遠藤正子

阿部陽子、熊谷敬子、高橋慎一、澤口 誠、滝浦弘美、(一般) 深澤万喜子

捕獲再捕獲法による野生生物の個体数推定

1回目の捕獲調査でシジュウカラが10羽捕獲され、足環で標識し放鳥。しばらくして2回目の調査を行ない標識つきシジュウ



ウカラ4個体と標識なしシジュウカラ8個体が捕獲された。

さて、この森に住むシジュウカラの数は何羽でしょうか？ ……………(答えは15ページ)

この2回の捕獲調査に基づく個体数の推定式は、水鳥や魚類の個体数を調べるためにこの式を先駆けて使用したといわれている研究者の名前を冠してリンカーン-ペテルセン推定量と呼ばれている。

(深谷馨一著 サンプルングって何だろうより)

4 月例会山行

平成 30 年 4 月 21 日

万 寿 山 (409.7m)

高 橋 耕

万寿山への山行は約 17～18 年ぶりである。当時は諏訪弘会員もお元気で「この山は・・・のようにこんもりしていて万寿山と言うんだな」とお話をされていて、そういうこともあり得る話だと眉に唾をつけて聞いておりました。夕顔瀬町の宝寿司ではよくお会いしました。そこのおやじさんも亡くなってしまいました。

4 月 8 日の平成 30 年度総会の席上で 10 人以上の参加者が見込まれることが明らかとなって、登山口の駐車場の確保が心配となりました。1 週間前に登山口の民家の人に訊くと、下の駐車場は自分の土地だからいいよということでしたので、安心して当日を迎えることができました。

参加者は葛巻町から久寿良夫妻をはじめ 5 名が参加、全部で 16 名という大所帯となりました。薄日さす曇り空の中、菅原敏夫リーダーを先頭に台温泉バス停前送電線順路入口から登山を始めました。

このコースは結構急な登山坂で頂上までは 50 分程、登山口のアズマイチゲをはじめ、本日特に思いを焦がすミスミソウ、カタクリ、ショウジョウバカマ、青木、その他沢山の花。そして近隣の山々が姿を現し、飽きることがありません。



花を愛でながらの急登



ミスミソウ

89 鉄塔を経て登る頂上にはアンテナらしきものが立っており、線が下に繋がっている、台温泉の旅館の TV アンテナではない

かと解説している会員がおりました。となると、現在も使われているのか、もしくは有線テレビになっているのか聞いてみたいところです。



下りは登りの 2 倍の距離をゆっくり台温泉へ向かって降りていきます。登りほどではありませんが、高山植物は豊かでした。気候も良く大勢の登山客とすれ違います。

こんもりしていて、花が豊富でそれなりに登りがいいもあるので、人気が高いのですね。1 時間 10 分程で台温泉やまゆりの宿に着きました。

今回の山行の説明などがあって解散、それぞれ温泉に入ったり、花見に向かったりしましたが、私は家にまっすぐ戻って昼食をとりました。10 年後も足が動いていたらもう 1 回登りたくなる山です。

【登り】8:30 台温泉バス停前送電線順路入口→盛岡線 89 鉄塔→

9:20 頂上〈20 分休憩〉

【下り】9:40 頂上→平塚・台温泉分岐→

10:50 台・金矢ハイキングコース入口〈15 分休憩〉→出発点へ

11:06 解散

【参加者】幹事：高橋 耕

久寿良謙一、阿部陽子、遠藤正子
高木恵美子、熊谷敬子、中屋重直
高橋万見子、澤口 誠、菅原敏夫
高橋 慎一、滝浦弘美
葛巻町・遠別山岳会：久寿良夫人、
遠藤、荒屋、佐藤の各氏

5 月例会山行

平成 30 年 5 月 26 日 (土)

栗木ヶ原 (1162m)

菅原純悦

春先から秋田駒の火山性地震ニュースが時々マスコミで聞かされることに大丈夫だろうか？嫌な考えを持ちながらその日が迫ってきた。地震予報は無くなったが週間天気予報では例会山行予定日に接近して大雨警報が出ている、そのとおりの大雨が降った。集合場所の滝ノ上温泉駐車場までの道は大丈夫なのか、23 日午前葛根田溪谷に沿った県道を走ってみた、玄武洞通過後土石流が行先の路上を流れた痕跡が認められたが集合場所までは行けることが分かった。

5 月 26 日午前 8 時 30 分集合でセレモニー・参加者は 11 名(会員 8 名・一般参加者 3 名)、コース案内は役員会員の中屋さんが先導してくださるとのことで安心して 8:40 出発、9:00 葛根田地熱発電所の通行止め柵を通して頂く、9:30 道路の舗装が切れて砂利道路・林道・まだ平坦に近い上り路になってきた。

目的の栗木ヶ原にはこの林道から藪の中を歩かなければ到達しないとのこと、両側にはウド・フキ・タケノコ等の山菜が目についた。

藪の中を約 20 分登山すると残雪があって登山道が阻まれてしまいました。皆で手分けしてルート探しをしまして 12:00 栗木ヶ原に到着しました。

栗木ヶ原湿原を散策、小さな沼にはサンショウウオ・イモリ等、蛇行する小川には小さな水芭蕉が咲いていました。頭上の山は三ツ石山で眺めは良い、木道は無いが尾瀬ヶ原の小さな模型のように素晴らしい湿原でした。多くの人が自由に入られると荒らされることが心配になると余計な事を考えるひと時となりました。

急ぎ昼食で、13:10 三角点に到着、下山開始して藪の中を潜り抜け林道を経て 15:30 集合場所に到着解散しました。



三角点を囲んで



【参加者】11 名

〔会 員〕8 名 菅原純悦 (幹事)

阿部陽子、中屋重直、遠藤正子、熊谷敬子、遠藤征彦、高橋万見子、滝浦弘美、

〔一般参加者〕3 名 坂本幸男 (紫波町)

佐藤直樹 (盛岡市)、細川敬次 (奥州市)

8 合目避難小屋管理当番 (9 月 1~2 日)



ガソリン等の荷揚げ、水道栓工事、物品販売、さらには傷病者 2 名の救助まで行った。宿泊者は 50 名。左から中屋、高橋 (万)、澤口、阿部支部長、(会員外)加藤さん。

6 月例会山行

平成 30 年 6 月 16 日 (土)

祭 時 山 (989.8m)

滝 浦 弘 美

祭時山例会登山は、支部長以下 11 人の参加で雨が心配されたが雨は降らず例会登山を楽しむことができた。

一関市祭時の地名を思い出すのは、2008 年 (平成 20 年) 6 月 14 日の震度 6 強の岩手・宮城内陸地震で祭時大橋が崩落した場所である。現在は新しい橋と道路ができて、下流には崩落した錆びた無残橋を見ることができる。私は、その日、岩手山に御神坂コースから登る時であった、かなり強い地震を感じたが中止しないで携帯ラジオを聴きながら登った日を思い出す。

祭時山は、高速道路一関インターから国道 342 号線を栗駒山登山口の須川温泉方向に進み、崩落した祭時大橋の手前から「いちのせき健康の森」の案内板から入る。

「いちのせき健康の森」の駐車場に集合した時、祭時山山頂付近には少し雲がかかっていたが祭時山を見ることができた。支部長の挨拶等準備をして、予定より 10 分早く 8 時 30 分スキー場のリフト脇を入山、野外活動施設を通りスキー場と樹林帯の境をリフト終点付近まで登り、国有林の樹林帯に入るとブナ、カツラの原生林が広がり健康の森散策路コース等になっている。沢を渡ると散策路は下山となるが私たちは右に向かう。

祭時山山頂方向の登山道は明確でないが膝位まで伸びた草木の踏み跡があり迷うコースは見当たらない、倒木を乗り越えたりしながらやや急坂を登る。尾根の手前の急坂にさしかかり、支部長から話があって、あらかじめ準備していた 30 メートルのトラロープを澤口さんが張り一人ひとり登る、本来の

登山コースであれば鉄鎖等がありそうな登道ではないかと思った。稜線に出て緩やかな尾根を登る、竹藪が多くなり時々咲くという笹竹の白い小さな花を始めて見た。藪の中になにかしら熊が食べたようなタケノコの形跡があった。11 時 05 分に三等三角点の山頂に到達した。

山頂は尾根状態で狭く注意しないと転落しそうな場所で、東方は展望をよくするため伐採されており時折流れる雲間から下界の「健康の森」等建物が展望でき登山の疲れを癒やしてくれた。



記念写真を撮り下山。

途中、山の主である熊さんの食べ物タケノコを横取りして収穫する。また、登山道を塞いでいた倒木に「ヒラタケ」と思われるキノコが生えており、食べられる物が分からないが収穫して下山した、待機していたキノコ鑑定師、菅原敏夫さんが鑑定した結果食べられる「夏ヒラタケ」と判明した、全員無事下山し午後 2 時 30 分ころ解散した。

早速宿泊先の工房で夏ヒラタケ汁とタケノコを料理して夕食の食卓を盛り上げ、祭時山例会山行のいい思い出となった。

最後に、祭時山は坂上田村麻呂が「山王の鬼」と呼ばれた蝦夷の一族を滅ぼし一族の党首を葬った山として伝承が残っている山とのこと。(骨寺村荘園遺跡探訪事業資料より)

【参加者】11 名 滝浦弘美 (幹事)、

阿部陽子、中屋重直、熊谷敬子、菅原純悦、高橋万見子、菅原敏夫、斎藤忠利、澤口 誠、高橋慎一、中村龍太郎



石上山登山 ショット shot



伝説の「姥石」 ↑↑↑

中之堂 ↑↑

逆コース登頂 ↑

の菅原・滝浦

大垂水に向かう ↑↑↑

牧野ビュッフェ ↑↑

中屋さんによる ↑

北上山地の山並案内

11 ページの答

$$\text{総個体数} = \frac{1 \text{ 回目に捕獲された個体数} \times 2 \text{ 回目に捕獲された個体数}}{2 \text{ 回目に捕獲された標識つき個体数}} = \frac{10 \times 12}{4} = 30 \quad (30 \text{ 羽})$$

編集後記

西日本豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震など、夏から秋にかけて大規模災害が相次いだ。地盤上も気象上からも災害国日本である。岩手・宮城内陸地震から今年は 10 年目。岩手支部は 6 月例会で震源地に近い祭時山に登り、震災遺構「旧祭時大橋」を視察、ケガに遭われた方々に思いを致し、翌日は栗駒山 3 支部合同登山に参加、犠牲者の冥福を祈った。災害が無くなることを願わずにはいられない。

山の日制定記念「ふるさとの山を登ろう」石上山登山が成功、終了。その道程を特集した。参加した皆さんの思い出の縁になればうれしい。

ところが、支部通信編集に着手したとたん、パソコンがダメになった。送っていただいた文書も消失し、ご迷惑をかけてしまった。とり急ぎ家電店に駆け込み PC を購入。バージョンアップだから、年寄りには苦労の連続だ。それでも何とか刊行に漕ぎ着けたという次第。苦心の労作、ぜひ目を通していただきたい。
(菅原敏夫)

JAC 岩手支部通信 第 48 号

発行 2018 年 9 月 30 日
 発行者 (公) 日本山岳会岩手支部長 阿部陽子
 編集 菅原敏夫